

資料館だより

2014年 春号

contents

公害病の教訓を次世代へ	2
四大公害病を語り継ぐために	2
イタイイタイ病を風化させない教育の実践に向けて	3
語り部コーナー	3
資料館インフォメーション	4

春の特別企画展「萩野昇の生きた時代」

イタイイタイ病の原因究明と治療に大きく貢献された萩野昇氏。その功績を写真や愛用品等の展示、関係者による鼎談で振り返ります。また、富山大学医学部の学生による研究発表も予定しています。

写真・愛用品等の展示

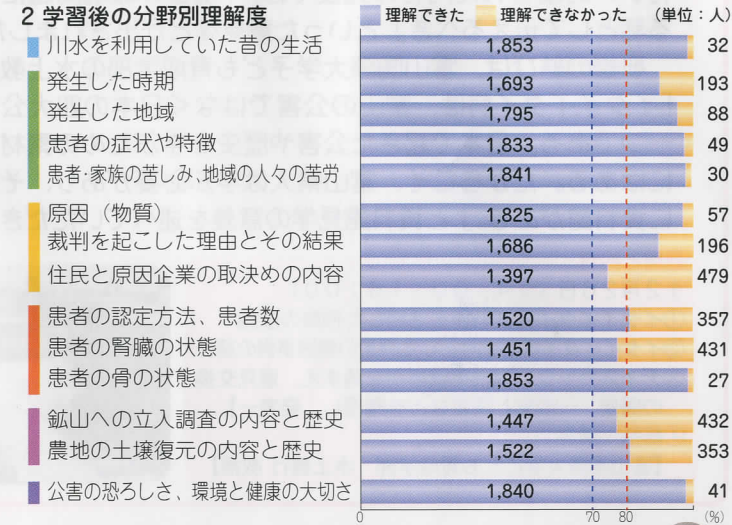
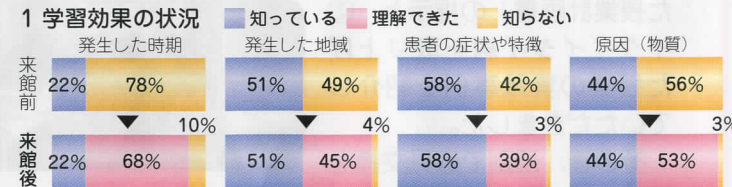
期間:4月26日(土)~5月6日(火・振休)
場所:イタイイタイ病資料館 交流学習ルーム

研究発表及び関係者による鼎談

日時:4月29日(火・祝) 研究発表 13:30~14:30
鼎談 14:30~16:00
場所:とやま健康パーク 第1研修室

無料送迎バスで来館した子どもたちの学習状況

「課外学習サポート事業」利用者調査結果(2013年度中間とりまとめ)
調査対象/小中学生 1,890人(33校)



1 学習効果の状況(来館前後の理解度の調査)

①イタイイタイ病の発生時期、②発生地域、③患者の症状や特徴、④原因(物質)について、来館前に「知らない」と回答した子どもたちでも、来館後には、その約9割が「理解できた」と回答しました。

2 学習後の分野別理解度(展示室での分野(14項目)毎の調査)

分野の大半で8割以上「理解できた」とする中で、「住民と原因企業の取決めの内容」、「患者の腎臓の状態」、「鉱山への立入調査の内容と歴史」では、7割台に留まりました。こうした分野では、解説の工夫を行うなど理解度の向上に向け、取り組みを行っていきます。

資料館の動き

これまでの出来事(平成25年度下半期)

- 平成25年 9月28日(土) 語り部による伝承会
- 11月 9日(土) 入館者6万人達成(476日目)
- 19日(火) イタイイタイ病資料館運営会議(県民会館)
- 12月26日(木) イタイイタイ病資料館活用研修会
- 平成26年 1月28日(火)~30日(木) イタイイタイ病映像展(富山市民プラザ)
- 2月15日(土) イタイイタイ病を考える県民フォーラム

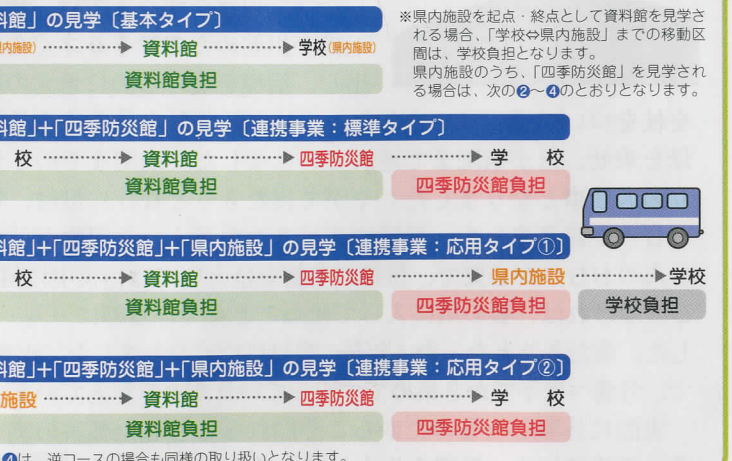
平成26年度の主な行事予定 *今後変更する可能性があります

- 4月26日(土)~5月6日(火・振休) 春の特別企画展「萩野昇の生きた時代」
- 8月 1日(金)、2日(土) 夏休み自由研究講座~イタイイタイ病を学ぼう~イタイイタイ病についての学習、語り部と回る展示見学、水の体験 など *対象は、小学校高学年とその保護者
- 8月 8日(金) イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー 神岡鉱山(排水処理施設、たい槽場等)や復元田をバスで見学 *対象は、小学校高学年とその保護者
- 9月27日(土) 語り部による伝承会 四大公害病の語り部による講話・意見交換会 など
- 12月26日(金) イタイイタイ病資料館活用研修会 資料館を学習に活かす方策 など *対象は、県内小学校の教員
- 2月14日(土) イタイイタイ病を考える県民フォーラム

無料送迎バスを提供する 課外学習サポート事業の利用校募集

多くの子どもたちにイタイイタイ病を学んでもらえるよう、学校などに「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業(環境省委託)」を実施します。資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。26年度からは、近接の「四季防災館」も見学する場合、無料区間が右記の通り延長されます。たくさんのご利用をお待ちしています。詳しくは、資料館までお尋ねください。

無料送迎の対象区間のイメージ

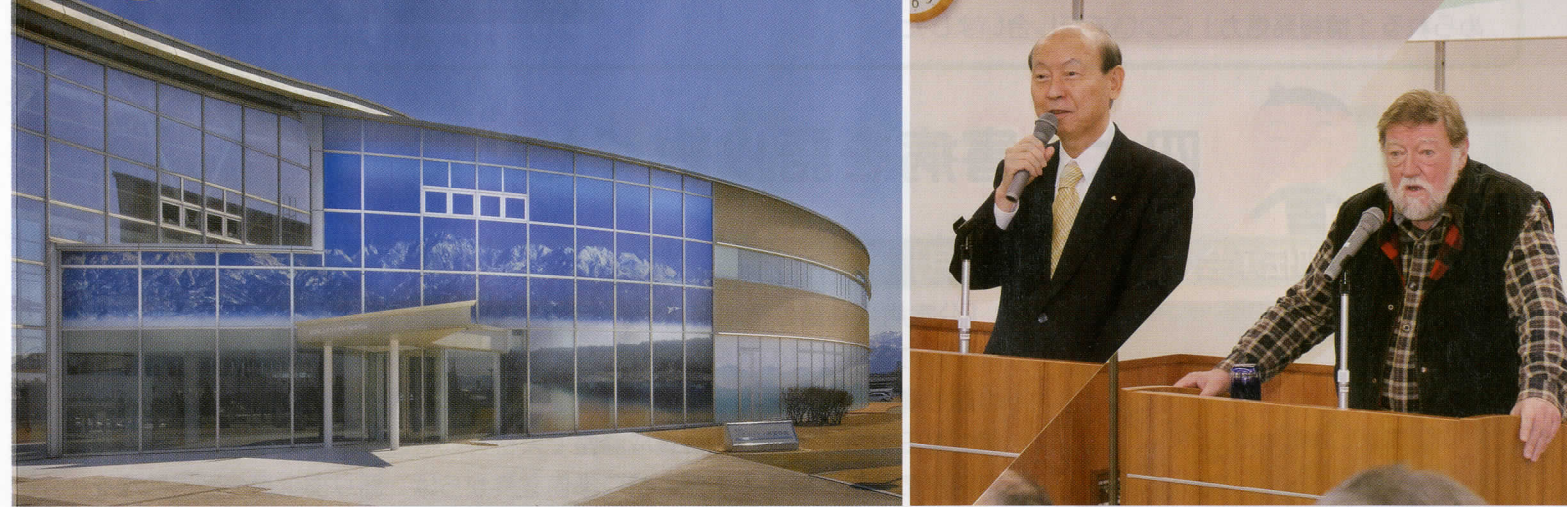


メールマガジン [登録者募集中]

月に1回、資料館の最新情報などをお伝えるメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は、次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】

発行/富山県立イタイイタイ病資料館 〒939-8224 富山県富山市友杉151番地(とやま健康パーク内)
電話▶076-428-0830 FAX▶076-428-0833
(平成26年3月発行) URL▶http://itaitai-dis.jp

平成26年 2月15日 イタイイタイ病を考える県民フォーラム 開催



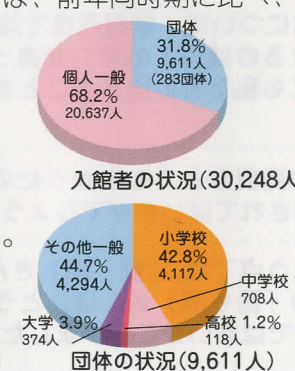
時代とともに歩む資料館づくりを進めます

富山県立イタイイタイ病資料館 館長 鏡森 定信

イタイイタイ病資料館の認知度の高まりか、昨年の大晦日や新年の開館初日の1月2日は、前年同時期に比べ、来館者数が倍増となりました。天候にも恵まれ、遠く県外から冬休みの旅行で来館された方もいらっしゃいました。団体利用では、小学校からの来館者数が初年度よりも大幅に伸びる結果となりました。来館された皆様から、たくさんのご意見をいただき、これらに感謝しながら、今年も資料館の運営向

上に努めてまいります。

さて、昨年末には、被害者団体と原因企業との間で、カドミウムによる腎臓機能への影響が確認された方への健康管理支援制度の創設など、新たな合意に至りました。資料館としては、このような動きを踏まえた展示や解説にも取り組んでまいります。また、新年度には特別企画展として、イタイイタイ病の原因究明と治療に大きく貢献された萩野昇医師が生誕百年を迎えるにあたり、「萩野昇の生きた時代」を実施いたします。イタイイタイ病資料館は4月から開設3年目に入ります。これからも時代とともに歩む資料館となるよう努めてまいります。ご支援よろしくお願いたします。



公害病の教訓を次世代へ

2月15日、「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催しました。開会挨拶で石井知事は、昨年12月17日の被害者団体と原因企業による「神通川流域カドミウム問題の全面解決」に関する合意に触れ、二度と悲惨な公害が繰り返されることのないよう願うとともに、健康調査への積極的な受診を呼びかけました。続いての学習発表では、富山市内の小学生と富山大学の学生、4グループから、イタイイタイ病の学習状況や研究成果などを発表していただきました。このうち2つの小学校は、これまでの先人の努力や苦労に感謝する思いを作文や寸劇で披露されました。その後、鏡森館長による資料館事業報告を行い、午前の日程が終了しました。

午後は、作家で環境保護活動家のC. W. ニコル氏による「心に木を植える」と題した講演会を開催。自身の経験を基に、「自然を育むと水、緑、人などの生命が維持される。また、自然は人の心をも癒す大切なものである」との話がありました。この後、四大公害病の資料館長等によるシンポジウムでは、会場からのご意見もいただきながら、資料館に求められる「情報発信力」について話し合いました。



イタイイタイ病の歴史を6年生48名の寸劇で紹介



四大公害病を語り継ぐために



【9月】語り部伝承会



かつての経済発展や産業振興優先の政策により、日本の各地で甚大な被害を発生させた「公害」。四大公害の語り部が一同に会するのは今回が初めてで、水俣市立水俣病資料館の川本愛一郎さん、新潟県立環境と人間のふれあい館の山田サチ子さん、三重県四日市市の野田之一さんと澤井余志郎さん、イタイイタイ病資料館の若林カズ子さんの順に講話をしていただき、被害の実態と克服してきた歴史を学びました。

引き続き、イタイイタイ病対策協議会の高木会長にも加わっていただき、「公害の教訓を語り伝えるために」と題した意見交換会を行いました。公害発生から相当の年数が経過し、風化を防ぐためにも、①公害を知らない若い世代への積極的な伝承、②実体験を直接語り伝える「語り部講話」のさらなる充実のため、今後も四館が連携し、交流を深めていくことなどが確認されました。

【2月】県民フォーラム・シンポジウム

「公害病資料館の情報発信力」と題して開催されたシンポジウムでは、それぞれの情報発信の状況を紹介。公害の実情が一番伝わる語り部は、いずれの館も高齢化や後継者不足などの問題を抱えています。水俣市立水俣病資料館の島田館長から、解説員養成講座で人材育成を図っていることや、四日市市四日市公害と環境未来館の樋口準備室長からは、語り部全員の証言映像を作成したことなどを報告いただきました。情報発信の対象となる次世代への継承策では、新潟県立環境と人間のふれあい館の塚田館長から、新潟県の小学生が夏休みに水俣市を訪問し、現地の患者と交流を深めている取り組みが紹介されました。

イタイイタイ病対策協議会の高木会長からは、被害者団体の活動と昨年12月の原因企業との間で調印された全面解決に関する合意について、これまで果たしてきた役割などを述べていただきました。

会場からは、「日本の公害の経験や教訓を広く世界に向けて発信すべき」など未来指向の意見が示され、最後に、鏡森館長が、「教訓の継承に向け、今後も情報発信を継続的に粘り強く行っていきたい」と締めくくりました。



参加者の声

イタイイタイ病について、学習発表で深く知ることとなりました。今、安全に生活できるのは先人の努力があったからこそで、公害のない生活をするためにも私たちの出来ることから努力をしていきたいと思いました。(富山市内60歳代・女性)

小学校の児童の発表がとても良かったので、県外の公害資料館等での発表なども企画されてはいかがでしょうか。(富山市内50歳代・女性)

情報発信力という点では、「語り部」さんの役割がとても重要だと思います。次世代の「語り部」さんは、どうあるべきかを早急に考えていく必要があるのではないかと思います。(富山市外70歳以上・男性)

イタイイタイ病を風化させない教育の実践に向けて

【12月】県内の小学校の先生32名が参加

小学校の教員を対象にイタイイタイ病を題材とした授業づくりに役立てていただくため、富山市内の先生2人から、①県小学校教育課程研修会 社会科部会で検討された「資料館を活用した授業計画書」の提示と、②イタイイタイ病を取り上げた授業の実践事例を紹介していただきました。



その後、班別で意見交換を行い、討議された内容の発表では、「現在の環境問題にも通じる話として伝えるべき」といった意見などが出されました。

研修の結びは、富山国際大学子ども育成学部の水上教授から、「イタイイタイ病は、富山の公害ではなく日本の四大公害病の一つである。日本で起きた公害や歴史を学ぶための素材が富山にはある。だからこそ、富山県人は学ぶ必要があり、そのために資料館がある。」と資料館見学の意義を述べていただきました。

日時と内容

12月26日(14:00~16:00)

- ①イタイイタイ病資料館を活用した授業の展開
- ②イタイイタイ病を題材とした授業の実践事例の紹介
- ③ディスカッション【実践事例を踏まえ、意見交換の開催 一成果と課題などを整理し、発表】
- ④総括・講評

【富山国際大学子ども育成学部 水上義行 教授】



今回紹介する「語り部」さんは、柘山八郎さんです。

柘山さんの祖母のあやさんが、イタイイタイ病認定患者でした。1962(昭和37)年81歳ごろから痛みがひどくなり、1967(昭和42)年12月29日の早朝、86才で亡くなりました。

おばあさんを看病された経験をほくとつで、たんとと語られる口調の中に、柘山さんの実直さが感じられます。

『私の抱負』柘山八郎さん(72歳)

祖母は、19才で柘山家に嫁ぎ、6人の子供を生み育て、毎日農作業にいそしんでいました。夏の暑い農作業の合間には小川に入り、顔や手の汗や泥を洗い落とし、きれいにした手で川水をすくっては、飲んでいました。元気な体に不調が出始めたのは50才ぐらいからで、ふしぶしが痛み出し、治療を受けるのに地元の萩野病院までのガタガタ道を杖をついて通っていました。症状が悪化し歩けなくなると、農作業用の一輪車に祖母を乗せ、母が病院まで連れていきました。病院までの5分ほどの距離が、半日がかりの大仕事となりました。やがて寝たきりとなり、母は、看病と農業を両立するつらい日々が続きました。夏場の汗拭きや着替え、洗濯物が乾かない冬の時期には、たくさんのおむつが必要で、祖母の着物をほどこいては、夜中に何枚も作りました。看病のたび「歩ければ、裏の川に入って死ぬこともできるのに・・・」というのが祖母の口癖でした。寝たきりとなった4年後、祖母は亡くなりました。火葬後の骨拾いでは、骨は粉々で、骨壺へは手でかき集めてすくって入れたのを覚えています。

実際に体験したものだからこそ語れるこうした被害の実態を、風化させることなく若い世代に伝え、教訓を生かしていくため、これからも訴えていきます。

語り部講話の聴講者を募集しています
対象は10名以上の団体で、事前申込が必要です。詳しくは資料館のホームページをご覧ください。



参加者の声

授業実践というたたき台があり、また、水上先生の具体的な講演が分かりやすい示唆となりました。(40歳代・女性)

学習した子どもの実態がよく分かる発表(研修)で良かったです。教師側のねらいと子どものズレについて、しっかりと教える側が知ることが大切だと思いました。(50歳代・男性)

イタイイタイ病を社会科の教材としてだけでなく、総合的な学習の時間でも扱えることがわかりました。地域の教材として、風化させてはいけないことを確認できました。(50歳代・男性)

初めて訪問しました。是非子供たちに見せたいと思いました。(30歳代・男性)

資料館を活用したことのない先生もおられたので、子どもと同じように館内で説明を受ける機会があれば良かったかなと思いました。(20歳代・女性)

語り部講話の感想

イタイイタイ病にかかった人だけが苦しむのではなく、その家族の人もとても苦しむことがわかりました。(小学生・女子)

今回のお話で、便利な生活=環境を守ることも同時に進めなければ、同じことを繰り返すことがわかりました。忘れないように子どもたちに伝えていかなければならないと思いました。(30歳代・女性)

おばあさんの痛みがよく伝わりました。また、ご家族の介護が大変なのに、おばあさんを大切に最期まで看取られたことに敬意を感じました。(40歳代・女性)

病気の全容を詳細に語っていただき、感銘を受けました。素朴な語り口の中に実直さがうかがわれ、何よりの企画で今後も続けていただきたいと思っています。(70歳以上・男性)